

2016 年度事業報告書

特定非営利活動法人こむの事業所

1 事業の成果

2016 年度は、前年度に明らかになった支援給付費の請求誤りに端を発して、障害者スタッフへの支援の在り方、一般就労支援が大きな課題となったことから、ミーティングの強化、定例化等により課題を共有し改善を図るとともに施設外就労支援など新たな取り組みを進めた結果 2 名の障害者スタッフが一般就労を果たした。

一方、給付費の返還は経営収支に厳しい影響を与えたが、スタッフ全員の努力により事業の継続を可能にするとともに、今後の発展に向けた経営基盤の強化の一助にもなっている。

2011 年 5 月に就労継続支援事業 A 型を開始してから 6 年目に入り、ソーシャルファームとしてのさらなる発展については、2015 年度に策定した中期計画の取り組みが不十分であり、課題を残したことから、新年度には取り組みを強化する必要がある。

(1) 障害者スタッフの一般就労

① 施設外支援の実施

一般就労に向けては、これまで十分な取り組みができていなかったが、駐車場管理業務の在り方への反省から職務能力開発を高める取り組みと並行して積極的に取り組むこととし、ハローワーク西宮の協力も得ながら、宝塚市保健福祉サービス公社が 1 名の施設外支援による雇用を受け入れ、3 カ月の支援期間を経て一般就労を果たした。

施設外支援については、ハローワーク担当者ともども未経験であったために手探りの支援であったが、保健福祉サービス公社の積極的な受け入れ姿勢も幸いし、円滑な実施ができ、今後の取り組みの参考となる事例となった。

② あとむとの連携

宝塚市障害者生活・就労支援センター「あとむ」との連携については、これまでこむの事業所の障害者スタッフの企業実習を主に取り組んできたが、その積み重ねの結果 1 名の一般就労を達成した。しかし、こむの事業所在籍時に比較して実質手取り賃金がほとんど変わらないという課題を抱えている。

(2) ビル管理事業

① 宝塚市立老人福祉センター・大型児童センター等公共施設清掃の受託

通常清掃については、求人の事情がひっ迫しているなどの影響で、チームリーダー職員の退職補充が順調に運ばなかったために現場作業の負担が過重になったことや毎年の最低賃金の改訂にもかかわらず業務委託費の改善ができていないために、業務改善を重ねているにもかかわらず事業収支が悪化しつづけるなど事業課題が明らかになった。

一方で、障害者スタッフの職能は確実に高まっており、長期にわたる取り組みの成果が表れつつある。

② 駐車場管理

2015年度に引き続き自己チェックシートや業務チェックシートなどを用いた業務改善に取り組んだことによりチームワークが強まりモラルが高まった。

(3) 食事サービス事業

① 給食受託

宝塚育成事業所の給食調理業務については、従事していた障害者スタッフの労働時間を増やすために配置転換を行い、障害のないスタッフで補充をしたため、障害者不在の職場となっている。

めふプラザ給食受託、こむの事業所給食については、厨房への障害者スタッフ配置のためにチーム制の導入の一步として実習の受け入れを行い、採用を目指したが果たせなかった。

② レストラン「こむず」の営業

2016年度は、マネジャー及び主たる調理師の退職に伴い、一時休業をせざるを得ない状況にあった中で、スタッフの努力により営業が持続でき、売り上げの減少もくいとどめることができた。しかし、最低賃金の大幅上昇や野菜をはじめ食材の大幅な高騰のために収益が悪化した。

支援スタッフのきめ細やかな支援活動により、ホール業務に従事する障害者スタッフの職能は格段に高まるとともに、1月からパソコン事業からの配置転換で2名配置となり、さらなるサービスの向上を目指している。

③ 配食サービス事業

2015年度から試行的に開始したデイサービススイッチオンへの配食を本格的に開始し、現在では1日40食程度となり事業の柱の一つになっている。

なお、おせち事業については、材料費の高騰に伴う価格引き上げが困難と判断し、実施しないこととした。

(4) こむの市場事業

① 生鮮野菜・米の販売

前年度に引き続き仕入れ先の拡大、販売の促進に取り組んだが、市況の悪化による米の販売が不振であったことなどにより売上げの大幅な増加にはつながらなかった。障害者スタッフ1名のフルタイム職場となっていたが、配置転換により2名の障害者スタッフの短時間職場となっている。

② その他の取り組み

海産物の販売による東北への支援に引き続き、お菓子の販売による熊本への支援にも取り組んできたが、これらはこむの市場の主力商品の一角を占めるにいたっている。

(5) パソコン事業

① パソコン等修理事業

パソコン等家電類の修理事業については、現在1名の障害者スタッフとなっている。2016年度は、売上げが伸びず需要が一巡したと考えられることから、あらたなマーケットを開拓するためにチラシの改訂版を作成するとともに、市内の福祉施設へダイレクトメールを送る取り組みを進めている。

② システム開発

現在1名の障害者スタッフが従事しているシステム開発について、既開発のボラコシステムは、一昨年受注した尼崎市、西宮市に引き続き2016年度は猪名川町からも発注があったことにより、近隣の主だった自治体が利用することになっていることから、販路拡

大の可能性は高いと考えられる。

(6) その他

① 住居利用

2016年度は、主に病院からの地域移行あるいは自宅親元からの自立生活に備えた訓練のための利用がなされ、それぞれ新たな住まいを確保し、自立生活を実現した。そのほか緊急一時的な利用を含めて、利用の全体の実績は、9人延べ131日であった。

② アトリエの利用

現在アトリエについては、パソコン事業及び試行的に実施しているエビス面画き作業場としての利用が主となっている。

③ 研修室、教室の利用

1階研修室、2階教室については、食事サービスの利用につなげるために昼食若しくは喫茶の利用を条件にグループ貸出しを行っており、利用が増加している。

④ 障害者就労・生活支援センター事務所貸付

社会福祉法人宝塚さざんか福祉会が宝塚市の委託を受けて運営する障害者就業・生活支援センターについては、障害者等の就労について、2016年度は9,049件の面談による相談を実施し、41人が就職した。

⑤ 成年後見センター事務所貸付

NPO法人宝塚成年後見センターが行う高齢者・障害者の法人後見等について、2016年度は面談をはじめ福祉サービス利用支援など1,738件の支援サービスを行ったほか9人の法人後見を行った。

2 事業実施に関する事項

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (千円)
障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業	ビル管理事業	通年	宝塚市立老人福祉センター・ 大型児童センター、こむの事業所 宝塚市売布東の町 12-8、9 宝塚市立健康センター 宝塚市小浜 4 丁目 4-1 宝塚市立口腔保健センター 福祉コミュニティプラザ駐車場 宝塚市売布東の町 9 番地内	19 人	障害 12 人 就労要支援 4 人	16,918
障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業	食事サービス事業	通年	宝塚育成事業所内厨房 宝塚市安倉西 4-1-7 こむの事業所 宝塚市売布東の町 12-9	12 人	障害者 3 人	29,448
障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業	こむの市場事業	通年	こむの事業所 宝塚市売布東の町 12-9	3 人	障害者 2 人	9,551
障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業	パソコン事業	通年	こむの事業所 宝塚市売布東の町 12-9	3 人	障害者 2 人	3,470
障害者等の地域移行及び一時的に住まいの困難を抱える人への住居支援に関する事業	住居支援事業	通年	こむの事業所 宝塚市売布東の町 12-9	1 人	施設等からの地域移行自立訓練及び家庭内暴力等からの避難	388